(臨床研究に関するお知らせ)

社会医療法人愛仁会高槻病院に入院され、リハビリテーション介入させて頂いた脳卒中 患者さんへ

社会医療法人愛仁会高槻病院リハビリテーション科では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向きコホート研究」という臨床研究で、倫理審査委員会で承認され、高槻病院院長の研究実施許可を得て行うものです。すでに存在する情報を利用させて頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

急性期脳卒中者の位相角および他の体組成の経時的変化とその特性について

2. 研究責任者

社会医療法人愛仁会高槻病院リハビリテーション科 理学療法士 内田周汰

3. 研究の目的

骨格筋の質は筋力、骨格筋量と同様に骨格筋の重要な指標であるとされており、各種有害健康転帰に 影響することが知られています。なお、各種身体機能に対しては量よりも質のほうが関連していること を示す報告も存在します。

筋肉の質の測定は、2018 年の欧州サルコペニアワーキンググループ(EWGSOP2: European Working Group on Sarcopenia in People2)においても重要性が示されています。測定方法に関してはさまざまな提案がされていますが、その中でも生体電気インピーダンス分析(BIA: Bioelectrical Impedance Analysis)における位相角(PhA: Phase Angle)は、予後因子と診断因子との間に強い関連が観察されるようになり、PhA の有用性に対する科学的関心が高まっています。また、PhA の測定は非侵襲的で客観性や互換性に優れていることに加え、体液過剰の影響を直接受けない利点があります。そのため、さまざまな疾患における予後予測の指標や栄養指標として活用されることも少なくないです。しかし、急性期脳卒中患者さんを対象とした PhA の報告は少ないです。また、入院時に高 PhA であった脳卒中患者さんを対象とした、二地点の経時的変化の特性を報告した先行研究はないです。

本研究の目的は、入院時のPhAが基準値以上であった(骨格筋の質が入院時の時点で高かった)急性 期脳卒中患者さんの位相角および他の体組成の経時的変化を分析し、その特性を明らかにすることとし ます。

4. 研究の概要

(1)対象となる患者さん

脳卒中の患者さんで、2022 年 12 月 1 日から 2024 年 2 月 29 日までの期間中にリハビリテーションを 受けた方

(2)利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、基本情報(年齢、性別、身長、体重、病型、合併症、在院日数、 転帰)、体組成分(位相角、骨格筋量、SMI、除脂肪量、脂肪量、体水分量、ECW/TBW)に関する情報です。

(3) 方法

電子カルテから上記の調査項目を抽出します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 資金源及び利益相反等について

資金源および利益相反等はございません。

8. 問い合わせ先

〒569-1192 大阪府高槻市古曽部町 1-3-13

社会医療法人愛仁会高槻病院リハビリテーション科 理学療法士 内田周汰

TEL: 072-681-3801 FAX: 072-682-3834

E-mail: uchida. shuuta@aijinkai-group.com